

シンポジウム

建築物を取り巻く衝撃問題

— 人災(衝突・爆発)、天災(津波・竜巻)、テロへの備え —

【主催】 日本建築学会 応用力学運営委員会 耐衝撃性能評価小委員会

【後援(予定)】 日本建築構造技術者協会

【日時】 2015年12月1日(火)・2日(水)

【場所】 建築会館ホール (東京都港区芝 5-26-20)

2015年に本会より『建築物の耐衝撃設計の考え方』を出版し、建築構造物に作用する偶発事象として、事故による衝撃荷重を扱い、その設計法の基本的な考え方を紹介した。一方、建築物を取り巻く環境に目を向ければ、衝撃力の作用する状況は、事故に限らず、津波、地震、火山活動、竜巻、土石流等、自然由来の災害に起因するシナリオ、テロのような人為的に構造物の破壊することを目的とした行為に伴う爆発や衝突の作用を想定したシナリオにも、建築物の設計者は視線を注いでいく必要がある。本シンポジウムでは、事故荷重に対する耐衝撃設計の考え方のレビュー、海外の事例・ガイドラインの紹介、さらに、原子力施設に対する衝撃設計、自然由来の衝突荷重に対する構造設計に関する話題にも裾野を広げ、建築物を取り巻く衝撃問題全体への今後の展開について議論する機会としたい。

【プログラム】

司会：加納俊哉 (JSOL)・崎野良比呂 (近畿大学)

■12月1日 午後

主旨説明 13:30～13:45

：濱本卓司 (東京都市大学)

セッション1「事故荷重に対する耐衝撃設計」 13:45～15:45

①事例の紹介

：小尾博俊 (大成建設)

②設計クライテリア

：西田明美 (日本原子力研究開発機構)

③衝突荷重とそのシナリオ

：向井洋一 (神戸大学)

④爆発荷重とそのシナリオ

：大橋泰裕 (清水建設)

セッション2「テロに関する海外の事例・ガイドラインの紹介」 16:00～17:00

①海外における事例の紹介

：井川 望 (鴻池組)

②海外におけるガイドラインの紹介

：櫛部淳道 (竹中工務店)

■12月2日 午前

セッション3「自然由来の衝突事象」 10:00～12:00

①地震による免震構造物の衝突問題

：三輪田吾郎 (大林組)

②津波における衝撃問題

：濱本卓司 (前掲)

③落石と土石流における衝撃問題

：園田佳巨 (九州大学)

④火山と竜巻における飛来物による衝撃問題

：別府万寿博 (防衛大学校)

■12月2日 午後

セッション4「原子力関連施設の耐衝撃設計」 13:00～14:00

①飛行機衝突に対する検討事例

：坪田張二 (日本原子力研究開発機構)

②水素爆発に対する検討事例

：片山雅英 (伊藤忠テクノソリューションズ)

パネルディスカッション 14:15～16:00

コーディネーター：中村尚弘 (竹中工務店)

まとめ 16:00～16:15

：竹内義高 (大林組)

定 員： 150名 (申込み先着順)

参加費： 日本建築学会会員6,000円、後援団体会員7,000円、会員外8,000円、学生5,000円
(資料代5,000円含む) ※会期中一度のお支払いで、両日も参加可能です。

申込方法： WEB事前申込み ▶<https://www.aij.or.jp/index/?se=sho&id=1283>

問合せ： 日本建築学会事務局事業グループ 伏見 03-3456-2057